

特257

445

巴

昭和改訂版
外八

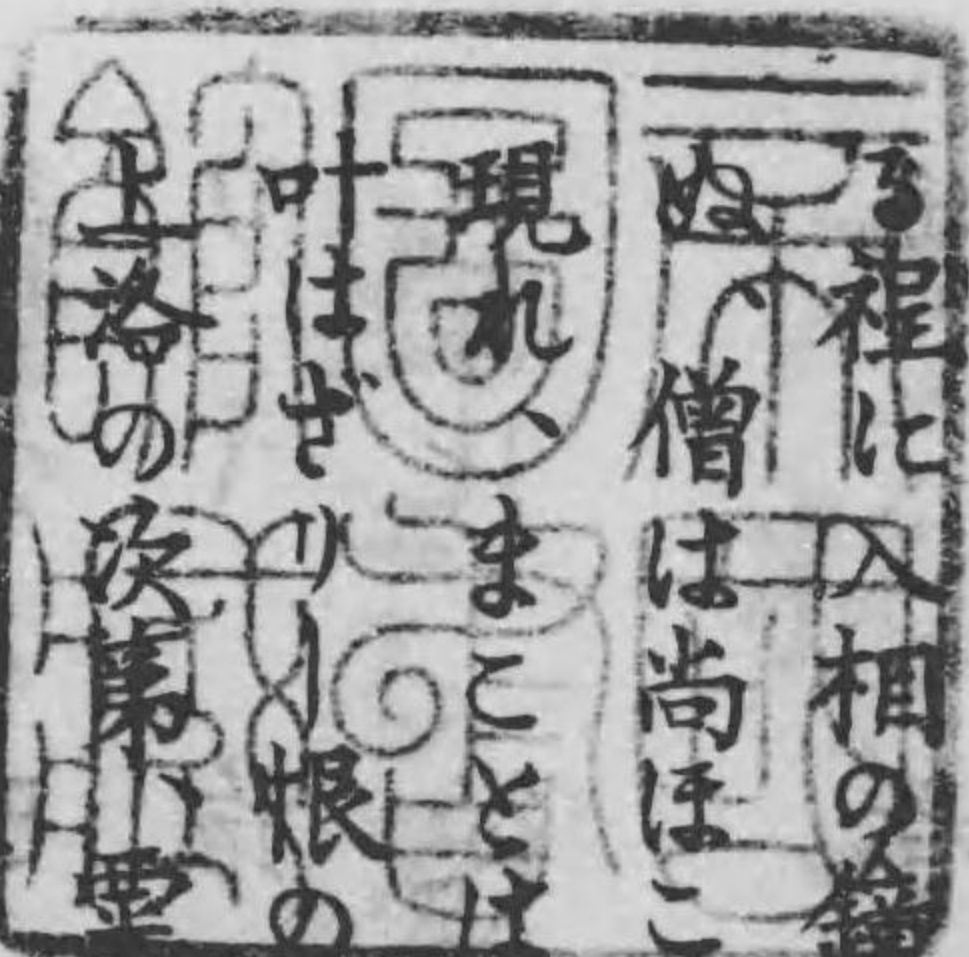


始



巴

(梗概) 木曾の山家を出でたる僧、都へ上る途次、近江の國粟津が原にて、一人の女神前にぬかづき涙を流し居るを見、其の仔細を尋ねりに木曾義仲を祀れる社なりと答ふ、僧は同郷の縁とて共に禮拜す、さる程に入相の鐘の音、湖の面に響く頃、彼の女何處ともなく姿を消し、僧は尚ほこの原にて義仲の跡を弔ひるゝが、前の女甲冑を帯りて現れ、まことば我は巴と言ひし女武者なるが、女とて御最期まじりてはざりし恨の執心晴れやらず、再びこゝに現れたりと名宣り、上洛の次第、粟津が原に於ける敗戦の様、最後の義仲と袂別の有様、義仲自害の後、其の形見を持ち、信樂笠を傾けて泣くゝ木曾路に歸り、衰れなる有様など懇ろに述べ、我が執心を弔ひたび給へと遂に行方知れず失せぬ、



シテ里女

後シテ巴

ワキ旅僧

ワキツレ 從僧二人

季 春

所 近江國栗津ヶ原

巴

わき次弟

上二人行未を古山下と船元ゆ下ま元く下来る路

乃格よ出あまのまあまの星あまのは本あまのるあまの此山あまの家あまのより

出あまのくる傍あまのよあまのまあまのてあまのいあまの我あまの来あまの都あまのをあまの見あまのまあまのそあまののあまの程あまのふ

此あまの度あまのをあまのひあまのまあまのたあまのりあまの上あまのよりあまのいあまの衣あまの本あまのるあまの此

三あまの坂あまのをあまのああまのまあまのりあまのまあまのくあまのまあまのるあまの日あまのもあまの又あまの深あまの

巴

お供はさうさう事を傳ゆる あき はん

神よ来り流し給ふ不審あてい

言は伝はき事あれは傳へて教和

尚はさう佐八幡よまゝで給ひ一首乃お

よ何事のおいしまんよ志く福を天さ

に波にさるることう給よ誨し給ひさ

神も衣とやさるまきん ギョイ 衣は神よ

衣をさうさうまを初男よは給て

よ一給ひ國土安全をちり給ふ思

とあふ事一ぬあぞや あき上 屋さしゆ

女姓なれは比里の都よ給ふ住居とて

名よ一おひはあやしはな あき 名よ

一 おびらると承る。あとお僧の位。旅ふ。

きおひじづくの程。おん あき 早の位。徳玉

本るれの家。の者よてい して 本るれの家

の人あゝ。巴業は。る乃神の。口名を。問を

ま。び。い。う。ぐ。ま。る。る。ま。い。ぞ。は。社。本。る。義。仲

の神。と。つ。ま。い。ま。お。い。ま。ま。に。お。と。旅。へ。や。旅

人よ あき あゝ。おの。義。仲。の。神。と。旅

ま。い。は。旅。よ。あ。ま。一。旅。お。有。難。さ。い。よ。と

して 神。あ。よ。向。ひ。手。を。合。せ。 ヤ 古。へ。の。是。ま。を

君。よ。名。の。今。も。 キ 明。有。れ。義。仲

の。仏。と。現。し。神。と。あり。 ヤ 世。を。ち。り。旅。へ。旅

旅。を。ぞ。有。難。う。り。 ヤ 旅。人。を。一。樹。乃。陰

ヤ

コ

他生れ縁とおぼしめしげねがねよ旅
居しおのほろを謹誦して五まの
を厨の娘おしめし結き値あう風実
有難き値通の取去ほごのきとゆく
目と山の端よ入おれ鐘のき乃うはの
はよひまきつづきも物まきま折

さうも我も亡者のきりさうきもあ
づき花さくはけ里人おとまをき強くと
ゆぶぐれの草乃さうりふはなはらしく
袖残のうきく子抱く日もくれあ
あも成しうきを薬津のきれ衣世のたね
新しきや帯らんく

あつたをきく。流氷のあつておのほ
うすめるをいさち福乃乃飛と報
と因果のそみかうらまんは法の功
かよる本國ともみゆるれは況や生
阿の直乃の弟ははき何事も頼り
やくみ種やあまきぬれ阿をば

の系乃子槐にこれみける女性あるが
甲曹を業きるあははなあま中た
己といつて女武者女とてはるあめ
かきかきまあまわんあまわん
今をいしあまあまはくやせども
根みハねもあまあまのあま

のりまて波乃討死末ともは世中へ
かりしを女として思ふ形も捨てられ
らまし娘めしや身は思の爲後ち義
あまの理り誰うきし侍らとり乃身
言物にのぞんで後名を惜まぬ者や
ある 偕も義仲の位徳を出させ給
ある 偕も義仲の位徳を出させ給

ひしこそ万金給はは勢かくしたるを
さあよおれやのむらりうきし侍ら
我よおいても分捕言名の甘ぬ誰よ
成こそれ誰ふ方お振存の世を語よ
ちしあふ心のれ 上 ちしあふ心のれ
運はあられしあも法よよけるあまは

此子のあはれおとほりあはれおぼへておぼへておぼへて
まじりて人なれどもえんよ早にせぬあ
お此東の合義まで討て居ひし義仲の
うを初を語りおしむせ 上は、睦月せぬ
あれは、昔もむしあはれぬまはりの御ひ
路とけをほして路残さるるよあはれぬあはれぬ
ヤラハ

氷のあつたよはれと交りも馬も靴
おきんごありたさん後りもぬくては
よまうで報をうてたし方も諸の儀あ
まはれぬあはれぬあはれぬあはれぬ
まはれぬあはれぬあはれぬあはれぬ
おまはれぬあはれぬあはれぬあはれぬ
せしてんまはれぬあはれぬあはれぬあはれぬ
ヤラハ

めしやまゝせけねぐらよは侍し。ちや法
自^ニや^ハい^ハく^ハも^ハ侍と^ハ中^ハせ^ハば^ハを^ハ時^ハ義^ハ仲^ハの
侍^ハよ^ハは^ハ海^ハを^ハ女^ハたり^ハ思^ハふ^ハ使^ハり^ハも^ハ有^ハべ^ハし^ハ是
なる^ハち^ハり^ハお^ハめ^ハを^ハ本^ハる^ハよ^ハ所^ハよ^ハけ^ハる^ハを^ハ背^ハ目^ハく^ハば
ま^ハは^ハい^ハせ^ハれ^ハ契^ハを^ハ結^ハ束^ハて^ハ永^ハく^ハ不^ハ孝^ハと^ハ宣^ハふ^ハ
に^ハい^ハも^ハ角^ハも^ハ海^ハよ^ハむ^ハせ^ハぶ^ハ斗^ハし^ハお^ハて^ハは
ヤラハ

前^ハを^ハい^ハさ^ハり^ハり^ハえ^ハれ^ハば^ハ敵^ハの^ハ大^ハ勢^ハを^ハい^ハさ^ハる^ハ女
武者^ハあ^ハる^ハは^ハな^ハは^ハい^ハま^ハの^ハと^ハ敵^ハを^ハお^ハろ^ハく^ハあ^ハる
ま^ハは^ハい^ハく^ハり^ハと^ハも^ハあ^ハる^ハま^ハじ^ハと^ハい^ハく^ハ軍^ハを^ハい^ハさ^ハる^ハや
と^ハい^ハさ^ハる^ハも^ハ強^ハう^ハた^ハと^ハ敵^ハを^ハい^ハさ^ハる^ハあ^ハる^ハん^ハと
も^ハ力^ハを^ハい^ハさ^ハる^ハは^ハめ^ハ少^ハあ^ハる^ハま^ハじ^ハた^ハる^ハあ^ハる^ハ敵^ハハ
は^ハい^ハと^ハ切^ハて^ハう^ハま^ハじ^ハも^ハ力^ハを^ハい^ハさ^ハる^ハあ^ハる^ハん^ハと
ヤラハ

取のべて四方へゆく家におかひ一語よあはる
本此紫るる一歳もあるや花此流波枕を
たさんご我ひなれが皆一方に切立られて詠
もあはよんてきりたる里路もあはよんてさり
きり 今ハ是迄也と 立廻り我君を
見えなれが痛くやよは自守らひひて此松

が移よ即路ふ由枕の程よは小袖肌のちりを
あはれあはれに泣きぬりて 死骸よは
中法くけきぬや行やぬんれ名残を
いらせんといふさくれぐのばまにこれあ
しまたあまはのひよさより止帯きり物
此をい移よぬたおき 梨子歩鳥帽子

終